

**令和 5 年度
事務事業評価（二次評価）**

アンケート結果

（評価者編）

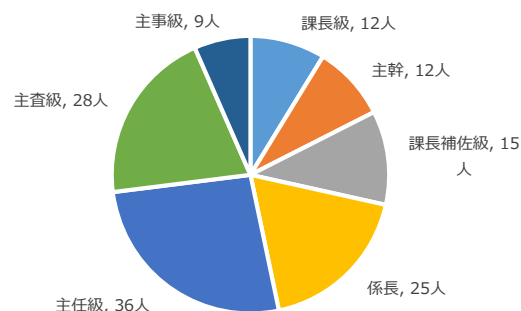
（説明者編）

事務事業評価に係るアンケート調査結果

回答数：137

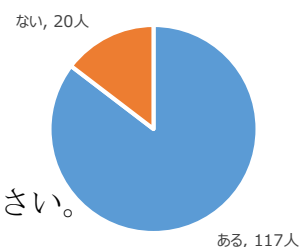
■設問1 あなたの職名を教えてください。

課長級	12人
主幹	12人
課長補佐級	15人
係長	25人
主任級	36人
主査級	28人
主事級	9人



■設問2-1 これまでに事務事業評価シートを作成したことはありますか。

ある	117人
ない	20人

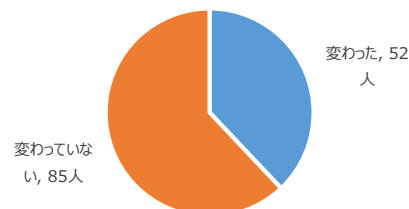


「ある」と回答された方 ⇒ 設問2-2にお進みください。

「ない」と回答された方 ⇒ 設問3にお進みください。

■設問2-2 事務事業評価シートを作成した前後で、当該事務事業に対する意識は変わりましたか。

変わった	52人
変わっていない	85人



上記の回答を選択した理由を教えてください。

○変わった

- ・ 目標に掲げた内容について、達成度を気にするようになった。
- ・ 自己評価することにより、振り返りを行えるほか、課題を再認識できた。
- ・ 改めて事業を見つめ直すきっかけになった。
- ・ 1つの事業に対して、外部委員を交えた分析できる機会が出来たことで自分の中で整理ができた。
- ・ 何のためにこの事業をやっているかを考えるよい機会だと思います。
- ・ これまで実施してきた事務事業の検証の機会ができること。第三者の視点での様々な意見や角度により事務事業の検証を行うことができること。（※1）
- ・ ただ予算執行だけするなら不要と感じる事業でも、事業背景や課として大事にしている事等、考えの共有ができた事は有意義と感じました。
- ・ 事業の目的や、指標・コスト意識を再確認する機会になっている。
- ・ 事業の目的・ねらいへの意識がより高まった（総合計画に基づく行政運営意識）。他事業との連動性による事業効果・業務改善の視点を意識するようになった。
- ・ ただし、事務事業評価の負担感が非常に大きい。

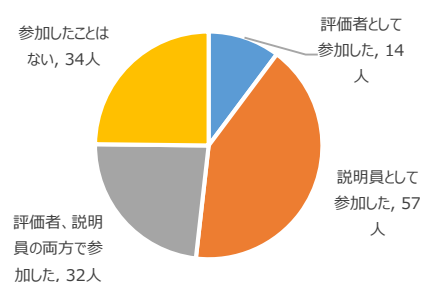
- ・ 事業を俯瞰してみることができた。（できていること、できていないことがわかった）
- ・ 担当として事業の説明がしっかりと出来るように以前よりも深く考える機会の一つになった。
- ・ しっかりと事業を振り返る時間をとることができた。
- ・ 意識は変わるが、前任が行ってきた事務についてその前任者がどういう思いでこの事業を実施してきたかなど、柱となる部分がわからない事業などは答えようがない。
- ・ 一度立ち止まって、その事業の目的や成果今後について考えるきっかけになった。
- ・ 業務における全体像が把握できたこと、所属外からの客観的な視点や意見により、意識改革につながった。
- ・ 事務事業の振り返り、次年度（当該年度）事業の取組状況の見直しにつながった感じたものがあった。
- ・ 何気なくこなしていた事業に対して、深く考えるきっかけとなった。
- ・ 今回初めて作成したが、今まで使った予算の総額や昨年比を見る機会が予算要求時ぐらいしかなかったので、有意義だった。
- ・ あらためて事業の振り返りができ、課題を整理することができた。
- ・ 事業を客観的に評価でき、必要性や効果に疑問を感じる事業もある。
- ・ 事業に対して、目的・目標意識を持って実施しなければならないと意識を新たにされた事業もあるし、目標設定に適さない事業もあり、作成自体に苦慮した。

○変わっていない

- ・ 当課では変えるものが無い
- ・ コストも事務手間も意識して仕事しており、担当・担当課で削減出来ることはすでに着手している
- ・ 課題や事業内容、事業費は把握している
- ・ 同じようなシートを作成する中で整合性ばかり気になった。義務的に作成しているため、作成することで見直すという感覚がなかった。
- ・ 作成の手間の負担の方が大きい。
- ・ 事業内容で必要ないと思っけていても、30分くらい事業内容を聞いたくらいで、他課の事業をバツサリと切ることはできず、できて改善くらいの提案が関の山で、やる必要性が見いだせない。人も年々少なくなる中で、トップがはっきり必要ない事業を削除していかないと、細かな事業が多すぎて、どこの課も手が足りていない状況で、事務事業評価の記入や対応の事務が増えるだけで、余計な仕事をさせられている思いが非常に強い。（※2）
- ・ 法律に準じて、事務をこなすだけのものであるため。

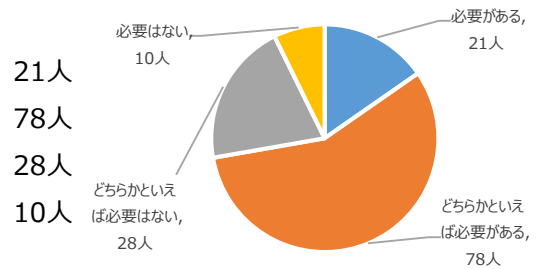
■設問3 これまでに事務事業評価の二次評価に参加したことはありますか。

評価者として参加した	14人
説明員として参加した	57人
評価者、説明員の両方で参加した	32人
参加したことはない	34人



■設問4 事務事業評価を行う必要性についてどう思われますか。

- 必要がある 21人
 - どちらかといえば必要がある 78人
 - どちらかといえば必要はない 28人
 - 必要はない 10人
- 上記の回答を選択した理由を教えてください。



○必要がある

- ・必要はあると思いますが、以前から記入しているとおおり、国や府の交付金や補助金対象で必須事業となっているものや庁舎管理のようなものについては事務事業評価にはそぐわないと思っており、すべきものは町単費や町の独自事業を評価すべきと思います。
- ・設問2-2の通り (※1)
- ・評価書は事業の概要と成果を公表する資料として、また、評価書を基にして事業評価を受けることにより、新たな視点が加わり、事業のブラッシュアップに繋がる機会になっていると思う。
- ・当たり前のことだが、担当課がその結果を受け止めて、その後の取組にいかすことが必須。
- ・事務事業評価シートを確認することでその事業のありようがわかるため必要。
- ・事業を見直す理由となる。
- ・客観的な視点をもって事務事業の検証を行うには良い。部外の意見を聞ける機会でもある。
- ・事業を行っただけに終わらせず、振り返ることで改善・充実につなげることができる。

○どちらかといえば必要がある

- ・決算資料にもなっているので必要かなという感想。個人的には、事務量が増えて大変になった印象が大きい。
- ・必要があると思うが、事務の効率化につながっているとは言い難いと思う。予算要求から決算資料まで事務事業評価シートが活用でき、事務の効率化が実感できれば良くなると思う。
- ・評価者として参加すると町全体の事業が理解できるかもしれない。
- ・事業の棚卸・改廃を検討していくためには、有効かと考える。ただ、事業の棚卸や改廃に結びついていないことが残念に思う。
- ・事業によっては評価の必要性を協議できないものもあるので、そういった内容を外せば職員負担感はさらに減ると思います。(京都府の事業を右から左へ流す事業など)
- ・職員の意識改革＝これがないと行政改革は進まないため。財政が厳しい状況は、言葉としては耳に入っているけど実感できていない感もあります(自分ごと化できていない)
- ・国府補助100%の事業の評価は必要ないと思います。
- ・どちらと問われればあったほうが良いとの認識。他課業務に関する知識はあったほうが良い。
- ・実施している事業によるのかなと思います。行政としてやらなくてはならない事務事業は評価の必要性が低いと思います。

- ・場内でもPDCAサイクルを回すことが出来ていないところも多いと思うので、事業評価がそこを解決する仕組みになると思いますが、その評価結果を実際に改善に結び付けられているのかが見えてこないところもあると感じている。
 - ・外部の評価員の意見はとても貴重で、そういう視点で考えなければいけないのかという勉強になる点もあるが、外部からすると「民間なら～こうする」「民間であるならこんなことは考えられない」という意見もあった。これは「行政だからこうなんです」という部分もあると認識しており、必ずしも民間視点を基準にするものではないと感じた。
 - ・事業によっては必要がないと思うものがある。
 - ・概ね自己評価がそのまま事業評価となり、あまり評価員の評価が組み込まれない構造であると思いますが、評価シートの作成は中堅以下職員が作成し、評価者は中堅以上職員が評価助言するという形であれば、自己評価において事業を統合・合理化できる政策形成能力に長けた職員の育成に繋がるのではないかと思います。
 - ・なんとなくで事業を進めるよりは、一度立ち止まって見直す機会は必要。ただ、どこまで時間や手間をかけるかや、評価結果が次年度の当該事業に反映されているか効果がわからないように思えるので、そのあたりは再検討する必要があるかと思います。
 - ・参加していないので実際のところはわかりませんが、自分や他人が改めて考えるのに良いような気がします。
 - ・評価が事務事業の取捨選択に繋がったような話を聞いたことがないので、まだ必要性が実感として感じられない。
 - ・より良い事業となるため。スクラップに繋がれば、確実に「必要がある」となる。
 - ・評価の必要ある業務とない業務が混在しているように思うため、評価後の結果想定をしたうえで対象精査をしたほうが良いと思う。
 - ・説明員側の立場でしか参加したことが無いので、評価者側の立場がわかりませんが、事業に対して評価者から批判めいたご意見をいただいたという話をお聞きしたことがあります。幸い私が担当していた事業では、建設的なご意見をいただき、その後の動きの中で関係者に共有することができましたが、せっかくの評価なので、批判ではなく建設的なご意見がいただけるようなら、評価を行う必要性があると思います。
 - ・事業の意味を再確認するためには必要と思う。
 - ・事務事業の1年間の主な取組を振り返り、評価をすることは必要であると思う。一方、この事務事業評価では表に出てくることのない共通的な庶務事務や職員の意識についても改善していく必要があると感じている。また、理事者にも評価結果を十分に認識していただくことも必要ではないかと思う。
 - ・事業について考えるナニガシカの機会にはなる。
 - ・事業を評価する取組自体は必要だと思うが、今のスタイルでは職員の負担だけが多く効果があまり上がらないように思える。総合計画や予算編成ともっとしつかりと連動したものであれば意味があるのかと。
 - ・必要な事業と必要ではない事業があると思う。
- どちらかといえば必要はない
- ・予算への紐づけが未だに無く、それを監視する目が無いのではいつまでやっても意味がないのでは？以前に評価委員の先生からも同じ指摘がありましたが、企画ではそこまでされないのでしょうか？なおさら意味がない事業になってませんか？（※3）
 - ・必要なのはわかるが評価結果が活かされていないのであれば、必要ない。

- ・マニュアルによる評価基準はあるものの評価軸を事業実施側が決めるという部分が気になります。正直、評価軸は好きなように定められますし、良く見せることは簡単だと思います。
- ・各課が設定してきた方針区分と評価者が選択した方針区分に近いように思えたので、担当課としても評価者と近い感覚を持っているのではないかと思います。また二次評価でC~Fの評価がついたとしても、担当課の事業の見直し及び予算要求方針で意見を伝えることができるので担当課が必ず実施するとは限らないため。
- ・意識の変化はあるが、事務事業評価の負担感が非常に大きい。何度も回答しているが、義務型は除外してほしい。特に、国で定められた事務の二次評価は、不要だと感じる。
- ・必要となる業務もあるかと思われるが、作ったことによる見直しという面であまり意味が見いだせなかった。（※4）
- ・町独自事業は必要あるかと思いますが、国からの事業（福祉・医療）などは不要かと思えます。（二次評価）
- ・評価委員や企画財政課が担当課と一緒に、事業の受益者等に対し、説明していくような形であれば、事務事業の見直しは進んでいくと思うが、現在のやり方のように、評価を受けてあとは担当課で進めて行くやり方であれば、事業の見直しは進んでいかないと考えるから
- ・事業に対する意識や取り組む姿勢を改めるきっかけになる部分もあるかもしれませんが、事務事業評価を行うための事前準備（シートの作成等）にかかる労力も大きく、負担感が大きいです。

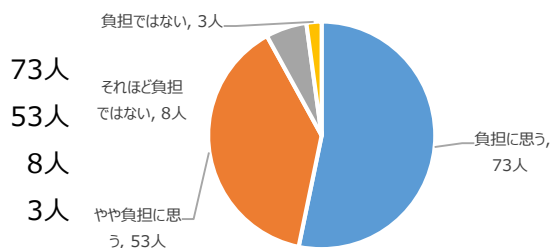
○必要はない

- ・評価員によっては必要な事業であっても事業を否定するような発言をされる。事務事業評価が始まってからの成果が見えてこないのが徒労感がひどい。
- ・設問2-2と同じ（※2）

■設問5 事務事業評価を負担と感じていますか。

- 負担に思う
- やや負担に思う
- それほど負担ではない
- 負担ではない

上記の回答を選択した理由を教えてください。



○負担に思う

- ・2次評価の対象事業になった場合は、資料作成が多い。事業内容によっては、評価しづらいものもある。
- ・上記（※3）と同じく財政に真剣なら予算の内容まで評価が生きているか実行するべき
- ・事業への批判はしないとの当初約束であったと思うが、かなり批判とも受け取れる評価の仕方が最近はあるように思う。仕事のための仕事を作ってるようにも感じられ、負担感も大きい。
- ・準備、当日の対応が大きな負担である。
- ・ただでさえ人が足りていないのでシートの作成も二次評価も負担にしか感じない
- ・通常業務に追われている分、後々になり熟考までに至らない。その分を残業で対応しています。

- ・ 2次評価では、どんな事業でも成果指標を数字で示すように指示されることがあるが、アンケートなどを実施することで業務が増え、事務効率が悪くなることもある。
- ・ 拘束時間が長い。
- ・ 上記（※4）のとおり、同じような内容のシートを「作らされる」という感覚が抜けない。
- ・ 評価するのも、事前に学習が必要であったり、評価される側も資料作りなどの時間と手間がかかりすぎて負担である。また、チーム内で進行役をするぐらいならいいが、書記は特に負担となるため、事務局でしてほしい。
- ・ エクセルで作成するのであれば、マクロを組んでフォーム形式にしていきたい。
- ・ 当初から一貫した様式になっていないから、年度ごとに新たに作成しなければならないという負担に繋がっている。
- ・ もう少し評価対象とする事務事業を絞り込むべきでは。評価結果に左右されないようなMUSTの事務事業などは、そのように整理して事務事業評価シートの作成をしないようにできませんか。事務事業評価シートももう少し項目を整理して簡潔に、見やすい内容にすべき。特に、二次評価の事業別担当課による自己評価及び今後の方向性の項目は見直すべきでは。設問が少し抽象的と感じます。設問に対して、評価と評価に対する説明が記載し辛いと感じます。
- ・ 事務事業評価が導入されたとき、福知山市の例を挙げて説明会があったと思うが、福知山市のように事務事業の削減・見直しが進んでいくのであれば、やりがいを感じるが、今の状態では負担感しか感じない
- ・ 評価が事後の事業実施に大きく反映されないため「やってもやらなくても同じ」状態で、同じなら「廃止して事務量を少しでも減らした方がいいんじゃないの」と思うところもある。
- ・ シートの作成には大きく時間を取られる。
- ・ 評価シートについては、事務事業の1年間の主な取組を振り返り、対外的に説明する資料としては一定有効であると考えているが、毎年記入項目が変更になり、記入要領も年々複雑になっているように感じている。評価シートの作成に一定の時間を要しているため、なるべく簡潔な様式・要領となるようにしていきたい。
- ・ ゲンナリします。
- ・ どの課も手が足りていない状況で、事務事業評価の記入や対応の事務が増えるだけで、余計な仕事をさせられている思いが非常に強い。
- ・ 「仕事のための仕事」という感覚が拭えないです。
- ・ 1事業分を作成するのに半日程かかったことがある。これほどの時間をかけてしなければならないのか疑問。今のスタイルだと仕事のための仕事という感覚が強い。

○やや負担に思う

- ・ 国府で定められた必ずやらなければならない事業まですることは負担に感じます。
- ・ 設問2-2のメリット（※1）を生み出そうとすれば、当然ながら事務の手間は増えると思います。
- ・ 負担ととるかどうかは職員（の意識、能力等）によるものと認識はしているが、総体的にそのような雰囲気を感じている。職員の意識が変わらないと（管理職含め）難しいでしょう。
- ・ 事業の担当者が事務事業シートを作成するが、個々によってシートの作成にばらつきがあったりとその修正に手間暇が必要だったため。

- ・ 継続事業などはなるべく昨年度のデータを更新するなど負担感を減らす努力をしているものの、完全新規の事業などは一から作る必要があるため、他の業務もある中で負担感が否めないです。
- ・ 過去の経緯を聞かれてもわからない。過去に受けた事務事業評価からどうか変わったのか、何をしてきたのか。そもそも過去に事務事業評価を受けていた事実すら知らないままに評価を受けることもあるため、説明員の体制をしっかりとっていただきたい。例えば、課が変わっても前任の担当者必須など
- ・ タイミング的に、異動や担当が変わったばかりで新担当が詳細をよくわからないまま評価シートを作成することもあり、作成者が誰になるかによっても負担の大きさが変わるように思います。
- ・ 導入から複数年が経過し過去の評価シートを参考に作成するため、以前より負担は減ったが、外部評価対象の自己評価欄は細かく、また文章の細部までチェックされることが多いため、文章化を丁寧に行っているため。
- ・ 負担に思うに近いやや負担に思う。結構な時間を費やさなくてはならないこと。
- ・ 時間が取られるから

○それほど負担ではない

- ・ 各種事務事業を進めるためには、一定の評価を行う必要があると思うので、統一した基準に基づく評価シートの作成は必要最小限にとどめるべきとは思いますが、評価シート自体の作成は、事業の一環として必要と考える。事務事業評価の結果が、事業の見直しや改廃につながっていないことで、負担を感じる部分があると思う。（事務事業評価が、予算編成などの結果につながっていない。つながっているように見えない）
- ・ 常に数字や事業の目的を理解していれば、あまり負担を感じることはありません。一方で、議会用やまち本用などなど、さまざまな機会に似たような資料をたくさん作らされることの方が負担であり、「事務事業評価シートに書いてあるけどな・・・」と思うことがあったので、それであればこの事務事業評価シートを他に流用できる形を取ってほしいと思います。
- ・ 持っている事業によって変わってくるので何とも言えません。

○負担ではない

- ・ 評価者の立場での参加であれば事業について確認してから臨むだけなので負担ではない。評価表の作成や説明員での参加であれば負担に思う。